会　議　録

1　会議名

令和元年度第6回高士区地域協議会

2　議題（公開・非公開の別）

(1)　高士区の課題について（公開）

3　開催日時

令和元年11月19日（火）午後6時30分から午後8時30分まで

4　開催場所

高士地区公民館　2階　中会議室

5　傍聴人の数

1人

6　非公開の理由

なし

7　出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委　員：青木正紘（副会長）、飯野憲靜（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子
建入一夫、細谷八重子、横川英男、横山とも子（欠席3人）

・事務局：中部まちづくりセンター　本間センター長、藤井係長、田中主事

8　発言の内容（要旨）

【田中主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

・挨拶

【田中主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

会議録の確認：建入委員

次第 3 議題「(1) 高士区の課題について」に入る。事務局より本日の進め方について説明を求める。

【田中主事】

前回の地域協議会において、高士地区多目的研修センターの平均利用者数が誤りではないかと委員から質問があった件について、担当課から回答があったため、報告する。積算根拠となっている平成 26 年度は、岩の原葡萄園の改修工事が行われており、高士地区多目的研修センターを販売スペース等として利用されていたため、利用者数が約 20,000 人と他の年度に比べて増加している。他の年度の利用者数については、町内会等の利用が約 1,000 人、高士ルミネにおける利用数が約 2,000 から 2,500 人となっており、年間利用者数としては、約 3,000 人から 3,500 人となっている。よって、平成 26 年度の特殊要因により利用者数が増加したもので、資料に記載されている平均利用者数に誤りはないことを報告する。

・資料 1 に基づき説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める。

【横川委員】

記載する課題は 1 つまでか。

【田中主事】

1 つ以上記載してもよい。

【飯野会長】

協議に入る。始めに配布された検討シートに各自考えてきた課題を記載願う。

―　委員記載　―

【飯野会長】

それでは、順番に発表願う。

【飯野 正美 委員】

テーマについては、高士区に芝生の公園が欲しいと考えた。これは以前から思っていたが、高士スポーツ広場に芝生の公園があればよいと思っている。芝生にすることで、子どもたちも遊べる。子どものいる母親が、高士区に遊ぶ場所がないため、保育園の子どもたちが行けるような場所もあってもよいのではないかと話していた。気軽

に遊べる場所を作ることによって、高士区にはいい場所があると周りの地域からも休日の憩いの場として人が来るようになる。

【金子委員】

テーマは、高士地区の住民に人口減少の現状を知ってもらうことである。高士区の課題を地域住民と共有することによって、課題解決の糸口を見つけることができる。

【小林委員】

テーマは、地域でのベルマーク収集である。自分の子どもの時は、盛んにベルマークを収集していた。現在では、子どもが減っているため、いつからか収集しなくなっている。ベルマーク収集を考えたきっかけは、他の地域の人から、せっかく子どもがいるのに、子どもに対して何の協力もしていないのかと言われたためである。ただし、上越市では、児童数が多い学校だけが収集しており、3 校程度が収集している。ベルマークを収集することで学校備品等も購入できるため、子どもたちに何かしてあげられないかと考えた。子どもたちと交流するためには、何かきっかけが必要である。

【建入委員】

テーマは、高士スポーツ広場の活用である。高士区にあるものを活用し、核になるものを作っていけたらよい。

【細谷委員】

高士区で採れた農産物の販売をテーマとしてあげた。高士区には、野菜や漬物作りが上手な人がおり、工芸品を作っている人もいる。それらをイベント時に出品してはどうかと考えた。岩の原葡萄園には多くの集客があるため、常時の直売所ではなく、観光客が来る時だけでも農産物を販売してはどうかと思っている。高士区の魅力として、岩の原葡萄園だけではなく、野菜もおいしいとアピールできる。

【横川委員】

高士再発見として高士区全域をウォーキングで回るイベントをしてはどうか。各町内会からおもてなしをしてもらいながら、高士区全 14 町内を 1 日で回ることができればよい。また、ふるさと高士まつりに代わり、高士区外から人が来る祭りをできないかと考えている。次に、上越酒造と岩の原葡萄園の見学会をしてはどうか。だが、地域協議会で意見を発信しても、町内会や地域住民が意識を持たない限りは受け入れられず、発展もしないと思っている。また、スポーツによる集客ができないかとも考えている。

【横山委員】

地域協議会の本来の役割は、自分たちの地域の魅力や住みやすさへの課題を地域住民が話し合い、課題の解決や提案をすることだと思っている。しかし、地域活動支援事業に協議時間の多くを割かれてしまうため、地域課題に対する議論や自主的審議の具体化に時間を割けない。そこで、自主的審議にかける時間を大幅に短縮してはどうかと考えた。高士区の地域活動支援事業に関しては、この数年の間で高士ルミネ以外に目新しい提案はないため、自主的審議が進まない結果として、悪循環が起きている。そのため、自主的審議にかける時間を短縮するか、地域協議会の考え方を根本的に変える必要があると感じている。

高士区の課題を３つ考えた。

１つ目は、旗振り役がいることで地域が活性化しているところは多いが、旗振り役は簡単に見つからない。要因としては、高齢者と若い世代に価値観の違いがあり、地域を盛り上げようと考える層が非常に薄くなっている。その中でも、地域を良くするために動いてくれる人はいるため、その人が高士区に移住したいと思えるきっかけはあるか、何を目的に来てくれるかを考えるべきだと思う。金谷区では、上越市若者未来会議という市議会議員も巻き込みながら若者たちだけで集まり、色々な将来のことを話し合う団体や、若者と市の若手職員の意見交換会として、若者だけで思っていることを本音で意見交換をする活動もしている。金谷区の地域活動支援事業で採択された事業として、金谷 JOY プロジェクトがある。こんなことをしたいという要望をみんなで話し合いながら企画をしていく事業である。こういった旗振り役がいれば、自分も楽しむために引っ張られていく人たちが活性化する１つの例だと思う。旗振り役を呼び込むためには、高士区の魅力を作らなければならない。

２つ目として、まちづくりの土台をつくる必要がある。勉強したうえで活動しなければ課題解決に至らないことがある。行政とどうやって協同していくか、地域に協力を求めるにはどうするか等を取りまとめていかなければ本来の課題解決にはならない。そのため、地域コーディネーターを行政が用意することで、楽しみながら勉強ができればよい。

３つ目は、移住促進や人口減少の抑制という言葉を使わずに、高士区には何もないことを逆手にとってはどうかと考えている。移住は大きな課題であるため、素人が移住を促すことは難しい。きっかけとしては、魅力のある生活や行政支援の充実等が重要

だが、実際には難しい。

これらの課題を踏まえて具体的な取組を考えた。子育て世代や子どもがいる家族は大事であるため、子どもいる人から旗振り役になってもらい、自主的に季節の暮らしを楽しむパパやママのグループづくりをしてはどうか。季節毎に子どもたちと父親や母親が一緒に楽しめる企画を考え、地域活動支援事業に提案し、地域協議会として支援する。そこに高齢者も巻き込むことで、昔の遊びを教えてもらうことができる。また、子育ての大変さを共有できるような場所づくりにも期待できる。人を呼んでくることは大変であるため、30 歳代から 40 歳代の人たちに楽しく自由にやらせてみてはどうか。それが盛り上がってきた際には、SNS で発信することで外の人が興味を持ち、移住につながるかもしれない。また、高齢者世代を対象とする場合は、不安のない老後のために自助や共助、公助の充実を図るため取組がよいと考えた。

【飯野会長】

3 つのテーマを考えた。1 つ目は、高齢者が安心して住める地域である。高士区では、お買い物ツアーを実施しているが、参加者が固定しており、地域全体に馴染んでいない。今後、自分が車を運転できなくなった際に、買い物支援を利用しなければ生活ができなくなるため、お買い物ツアーの定着が大切である。

2 つ目は、雪対策である。行政による除雪は、家の前の出入り口までは除雪してくれない。雪対策をしている住宅もあるが、高齢者が暮らしている昔の住宅には少ない。そのため、雪対策には不安を感じている。

3 つ目は、介護の問題であるが、具体的な方策までは考えていない。

【青木副会長】

テーマは、高士区の PR を組織的にやることである。高士区には、活発で伝統的な地域活動があると思っている。例えば、体育協会では色々なスポーツを紹介し、一生懸命に活動している。すこやかサロンが非常に賑わっており、最初は 10 人前後だった参加者が、最近では 15 人から 20 人に増えている。高士区のよいところは、活発な活動がなされていることであるため、区内の子どもや若い人たちに活動を知ってもらうための PR をしてはどうか。また、誰がやるかは課題となるが、専門的な部門や担当を設置すべきと考える。

次に、私事だが夏季に農作業ができなかったことがあり、わずか 2 か月で荒れ地になってしまった。また、周りを見回すと同じように荒れ地になっているところが増え

ている。そのため、空いている畑を農作業がしたい人たちに貸与する取組はどうか。高士区には優れた農業者が多くいるため、希望者に畑を貸与し、高士区の農業者が指導することにより、高士区に来てもらって交流する場を持つことができれば、高士区をもっと知ってもらえる仕組ができる。

【飯野会長】

全ての委員の発表が終了した。これからフリートーク形式で協議する。

―　フリートーク開始　―

【飯野会長】

以上で、フリートークを終了する。

次回は、地域活動支援事業における支援方法について検討することで決定した。

以上で、次第 3 議題(1)「高士区の課題について」を終了する。

次に、次第 4「その他」の「次回の開催日」に入る。

―　日程調整　―

・次回の協議会：12 月 17 日（火）午後 6 時 30 分から　高士地区公民館　中会議室

・内容：高士区の課題について

【青木副会長】

・閉会の挨拶

【飯野会長】

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

自治・市民環境部　自治・地域振興課　中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。